

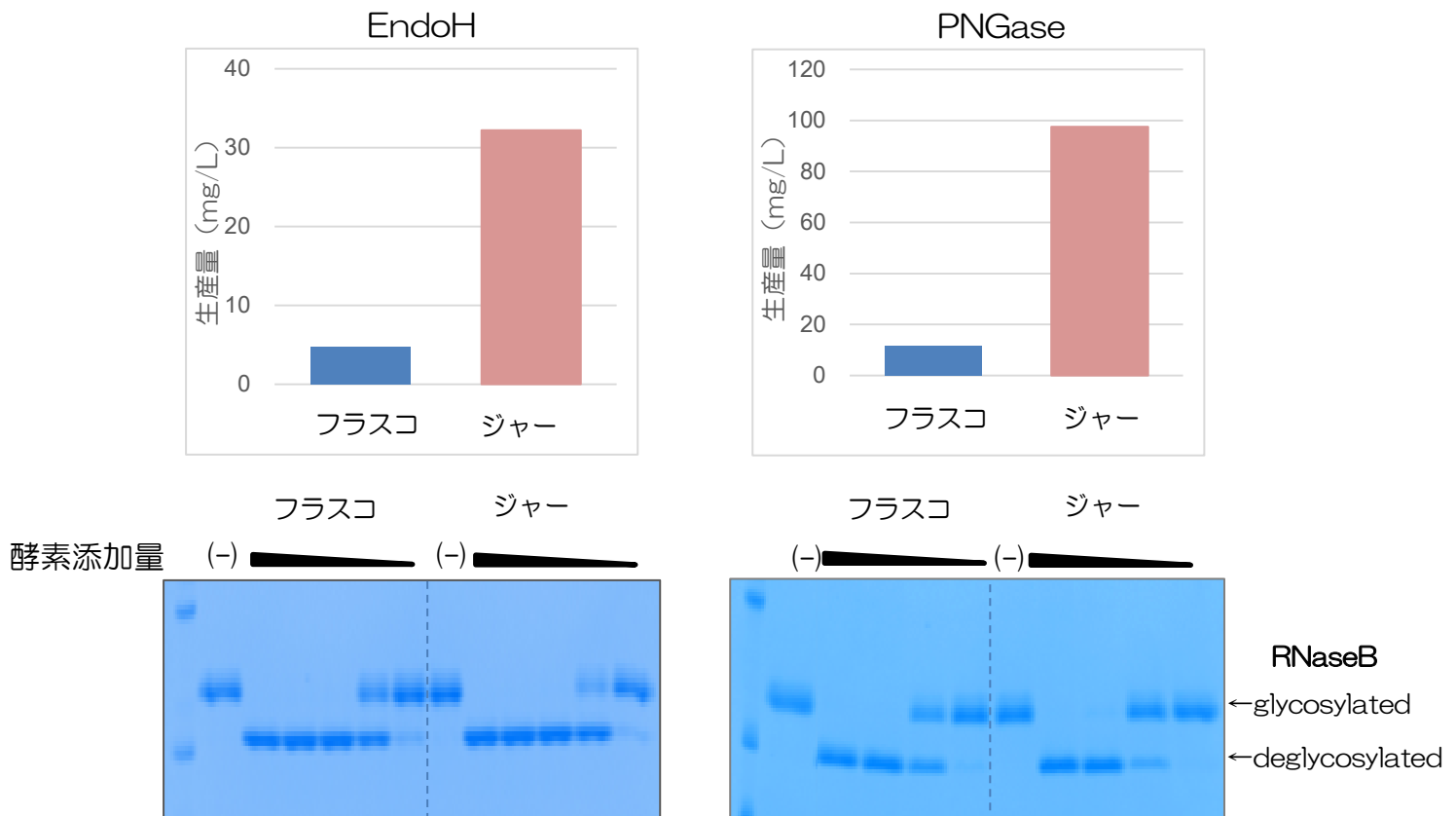
＜大腸菌によるタンパク質生産（糖鎖切断酵素）＞

大腸菌発現系を用い、2種の糖鎖切断酵素の生産を行いました。フラスコ培養とジャーフェーマンターによる流加培養での生産を行い、生産性および酵素活性を比較しました。

【試験】

2種の糖鎖切断酵素（EndoH, PNGase）の発現ベクターを大腸菌株に導入、フラスコ培養およびジャーフェーマンターを用いた流加培養で培養を行いました。結果、精製タンパク質量は、流加培養ではフラスコ培養と比較して培養スケール当たりの生産性が6~8倍程度高くなりました。

精製したタンパク質を用い、RNaseBを基質とした脱グルコシル化活性の評価を行ったところ、培養方法による比活性の差は見られず、いずれも同程度の脱グルコシル化活性が確認されました。



タンパク質受託発現サービス情報は[こちら](#)